

第 46 回日本口蓋裂学会総会  
賛助御依頼 趣意書

第 46 回日本口蓋裂学会総会・学術集会

2022 年 5 月 25 日(水)～27 日(金)

於 鹿児島市・かごしま県民交流センター

会 長： 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科  
顎顔面機能再建学講座口腔顎顔面外科学教授  
(旧鹿児島大学歯学部口腔外科学第 2 講座)

中村 典史



## ご挨拶

この度は、第46回日本口蓋裂学会総会・学術集会を鹿児島大学大学院口腔顎顔面外科分野が担当する機会を与えていただき、誠に光栄に存じております。鹿児島で本会が開催されますのは、第28回大会(平成16年)以来17年ぶりとなります。関係の皆様にご挨拶を申し上げます。

会期は令和4年(2022年)5月25～27日で、会場はかごしま県民交流センターとさせていただきます。この会場は、鹿児島市の中心にあり、繁華街の天文館からも近いことから、会場へのアクセスがとても良い上に学会と美味しい郷土料理やお酒を皆様に堪能していただくうえで格好の場所と考えています。

さて、学会のテーマは「健やかな笑顔を育むチーム医療 -口唇裂・口蓋裂児の心身両面を支える全人的医療の実践-」とさせていただきます。口唇裂・口蓋裂の一貫治療の最終ゴールは、患者を心身ともに健康な状態で社会に導くことと考えます。近年、治療法の進歩に伴い大きな障害に苦しむ患者は減少したといわれますが、同時に、口唇裂・口蓋裂児やその家族の心理的側面に配慮する医療や研究に注目が集まっています。そこで、患児が健やかに育つためには、我々が何をすべきかを考える機会としたいと考えました。例年、出席が800名以上の規模で行われ、今回は特別講演・シンポジウム・教育講演・口頭発表などを企画しているところです。多くの方に歴史情緒あふれる鹿児島に足を運んでいただきたいと思いますが、コロナ禍の先の見えない状態ですので、対面とWeb参加の両方が可能なハイブリッド形式で開催する予定です。

つきましては、本大会の趣旨にご賛同の上、格別のご高配を賜りたくお願い申し上げます。

末筆ながら、関係各位のますますのご発展を祈念申し上げます。

第46回 日本口蓋裂学会総会・学術集会

会長 中村 典史

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

顎顔面機能再建学講座口腔顎顔面外科学 教授

# I 本学会の目的と開催意義

## 1. 日本口蓋裂学会について

### 【口唇口蓋裂とは】

口唇口蓋裂は、母胎内で鼻、唇、口蓋(上顎)が正常にできあがらず、開いた状態で生まれる病気で、最も頻度の高い先天異常の一つです。日本人では 500 人に1人の割合で生じ、全国では 25 万人以上の患者さんがおられる計算になります。

口唇裂・口蓋裂に起因する哺乳障害、発音障害、咀嚼障害などの機能障害、口唇外鼻形態異常による審美障害は、患者さん本人のみならず家族にとっても大変な苦痛であり、患者さんの円滑な社会生活には、言語障害と審美障害の改善がとりわけ必要です。

医学・歯科医学の発達によって口唇裂口蓋裂の治療成績は著しく向上していますが、患者さんが障害を感じることなく幸せな生活ができるようになるには、様々な分野の専門家が集まったチームによる総合的な一貫治療が必要です。

### 【本学会の歴史】

本学会は 1962 年の口蓋裂治療談話会にはじまり、1970 年の口蓋裂研究会を経て、1976 年に日本口蓋裂学会として発足しました。そのため、既に約 60 年の実績を持っています。日本で口唇口蓋裂治療に携わっている口腔外科、歯科矯正科、形成外科、耳鼻咽喉科、言語治療、歯科麻酔科等の医師・歯科医師・言語治療関係者が集まり、口唇口蓋裂治療技術の向上と普及を図ることによって患者さんの幸せに貢献することを目的とした、世界でも類を見ない学際的な学会で、現在に至るまで、口唇口蓋裂の治療と研究を通じて我国における口唇口蓋裂治療成績の向上に重要な役割を果たしてきました。本学会は、わが国における口唇口蓋裂の治療と研究の発達と普及に大きく貢献し、日本の治療技術・治療成績と研究は世界的にも高く評価されています。

### 【本学会の現況】

日本口蓋裂学会は、歯科矯正科医、口腔外科医、形成外科医、言語聴覚士、小児歯科医、歯科補綴科医、耳鼻咽喉科医などを中心に構成され、現在では会員 3200 名を超える医療者の学会となっております。評議員ならびに理事は各専門領域から選出され、理事長が会を統括します。現在の理事長は古郷幹彦教授で 2019 年 6 月から就任しております。

日本口蓋裂学会雑誌は年 3 回発行され、総会・学術集会は年 1 回開催されます。第 46 回日本口蓋裂学会総会の大会長の中村典史教授は本学会雑誌の編集委員長を務めております。

総会・学術集会には例年約 700 名の会員が全国から参加し、特別講演、シンポジウム、ワークショップ、一般演題の発表などが行なわれ、2 日間にわたって活発な討論が行なわれます。

本学会で発表される内容は直ちに日々の治療に反映され、日本の口唇口蓋裂治療が世界で最高水準を保ち、さらに世界をリードしていく原動力となっています。

## 【最近の大会長・担当講座・開催地】

第 40 回	2016 年	大会長	古郷 幹彦	大 阪
第 41 回	2017 年	大会長	槇 宏太郎	東 京
第 42 回	2018 年	大会長	楠本 健司	大 阪
第 43 回	2019 年	大会長	高木 律男	新 潟
第 44 回	2020 年	大会長	後藤 滋巳	愛 知
第 45 回	2021 年	大会長	上田 晃一	兵 庫
第 46 回	2022 年	大会長	中村 典史	鹿 児 島

## 2. 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面外科学分野(旧鹿児島大学歯学部口腔外科学第二講座)と本学会の関係について

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面外科学分野(旧鹿児島大学歯学部口腔外科学第二講座)は、1981年の講座開設当初から口唇裂・口蓋裂の一貫治療システムの充実と発達に努めてきました。現在では、鹿児島県で出生する口唇裂・口蓋裂患者のほとんどが当科に紹介され、出生直後から成人に達するまで治療を受けています。患者は鹿児島県のみならず宮崎、熊本をはじめとする九州各県から受診し、年間の新患者数は40-50名、年間約100名の患者が手術を受けています。

当科の前任の三村保教授は2001年から日本口蓋裂学会の理事長を務め、第28回本学会総会・学術大会を担当し、我が国の口唇裂口蓋裂治療の発展に寄与しました。また、第46回大会長を指名された中村典史教授も2006年から日本口蓋裂学会評議員、理事を務めるとともに、多くの国内・国際学会において口唇裂口蓋裂に関する招待講演やシンポジストを務め、我が国の口唇口蓋裂治療・研究の第一人者として高く評価されています。また、アジア、アフリカにおける口唇裂口蓋裂海外医療活動、および鹿児島口唇口蓋裂親の会活動等の社会活動においても高く評価され、2013年にはMBC賞を受賞しました。鹿児島で日本口蓋裂学会総会・学術集会被開催されることは、鹿児島のみならず、日本の日本口蓋裂治療と研究の進歩発展にとって大きく貢献すると期待されます。

## Ⅱ 第46回日本口蓋裂学会総会の計画概要

### 1. 主催機関ならびに責任者

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科  
顎顔面機能再建学講座口腔顎顔面外科学  
教授 中村 典史

### 2. 事務局

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科  
顎顔面機能再建学講座口腔顎顔面外科学

第46回日本口蓋裂学会総会準備委員会  
(Tel:099-275-6242 Fax:099-275-6248)  
大会長 中村 典史 教授  
準備委員長 野添 悦郎 准教授  
会計委員長 大河内孝子 助教

### 3. 会議の概要

#### (1) 大会名称

第46回日本口蓋裂学会総会・学術集会

#### (2) 開催期日

2022年5月25日(水)～27日(金)

#### (3) 主要題目

メインテーマ: 健やかな笑顔を育むチーム医療ー心身両面を支える全人的医療の実践ー

#### (4) 学術発表の企画(予定)

特別講演 1題(外人招聘講演の予定)  
シンポジウム 5題  
教育講演 2題  
一般演題 300題(口頭発表 200題、展示発表 100題)

#### (5) 参加予定人員

合計 850人 (国内 830人 国外 20人)

#### (6) 会場

かごしま県民交流センター:

第1会場～第3会場(特別講演・シンポジウム・教育講演・口頭発表・総会など)  
商業展示会場  
総合受付  
学会本部、その他

#### (7) 学会の様式

ハイブリッド(大会会場およびオンラインの併用)形式の予定

## 記

第 46 回日本口蓋裂学会総会に協賛いただける、もしくは協賛を検討していただける場合には、下記の項目につきまして、お願いしたく存じます(以下金額はすべて税込み)。

### 1. 寄付金

寄付金に対する免税措置はご用意しておりませんので、あらかじめご了承ください。  
また、寄付金に対する請求書の発行は行っておりませんので、ご承知おきください。  
下記の口座にお振込みをお願いいたします。

振 込 先 : 鹿児島銀行 桜ヶ丘支店 (店番:143 )

普通預金 / 口座番号 : 3058710

(カタカナ) ダイ 46 カイニホンコウガイレッツガツカイソウカイガクジュツシユウカイ

口座名義 : 第 46 回日本口蓋裂学会総会学術集会

### 2. 抄録プログラム誌への広告掲載

規格と部数: A4 判、約 4000 部を印刷配布の予定  
配付対象者: 学会員、学会参加者  
広告料: 後付(モノクロ) 1 頁、99,000 円  
後付(モノクロ) 1/2 頁、55,000 円  
掲載頁決定: 各広告掲載の頁割りなどは、申し込み締め切り後に事務局で決定いたします。

### 3. 大会ホームページへの広告掲示

大会 HP 内に広告を掲示します。  
広告料 55,000 円  
掲載規格: 学会ホームページに、A6～B6 サイズの広告を掲載します。  
掲載期間: 学会終了後の学会ホームページ閉鎖まで  
掲載様式については改めてご連絡申し上げます。

### 4. 商業展示への出展

展示会場: かごしま県民交流センター2階大ホール予定  
(会員休憩コーナーと併設の予定)  
(鹿児島市山下町 14-50 Tel.099-221-6600)  
小間仕様: 1小間(幅 1800mm 奥行き 900mm 高さ 2100mm の予定)  
展示料金: 110,000 円

詳細： 展示台や電気仕様、コンセントの手配などに関しては、お申し込み頂いたときに、事務局からご案内させていただきます。

## 5. ランチョンセミナー

料金： 550,000 円

大会会場でのランチョンセミナー(約 200 名)を予定します。

詳細は追って連絡いたします。

第 46 回日本口蓋裂学会総会の1～5の協賛につきまして、ご承諾ないしご検討ください。  
2.～5.の項目については、内容に応じて運営事務局より後日、請求書を発行いたします。  
つきましては、次頁の第 46 回日本口蓋裂学会総会協賛回答書を 2021 年 10 月 31 日までに Fax099-298-1512 宛てご返送いただければ幸いです。

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科  
顎顔面機能再建学講座口腔顎顔面外科学  
(旧鹿児島大学歯学部口腔外科学第 2 講座)  
第 46 回日本口蓋裂学会総会準備委員会

準備委員長 野添悦郎

会計委員長 大河内孝子

Tel:099-275-6242 Fax:099-275-6248

上記に関するお問い合わせ、ご相談は下記宛お願いいたします

第 46 回 日本口蓋裂学会総会・学術集会運営事務局  
株式会社 CSS 内  
担当 正司園加奈子  
〒891-0117 鹿児島市西谷山3丁目 1 番2号  
TEL 099-298-1511 FAX 099-298-1512  
E-mail jcpa46@itd-css.jp





FAX 送信票

**送信先 099-298-1512**

株式会社 CSS 内 第 46 回 日本口蓋裂学会総会・学術集会運営事務局

## 第 46 回日本口蓋裂学会総会協賛回答書

第 46 回日本口蓋裂学会総会 大会長  
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面外科学分野  
中村典史 殿

下記のとおり回答します。

西暦 年 月 日

貴社名	印	
フリガナ ご担当者名	印	
ご所属部署		
ご住所	〒	
TEL		FAX
E-mail		
項 目 (□に✓印をおつけください)	1. 寄 付: □諾 □否	
	2. 学会雑誌広告: □諾 □否	□後付 1 頁: 99,000 円 □後付 1/2 頁: 55,000 円
	3. 大会HP広告: □諾 □否	□ 55,000 円
	4. 商業展示: □諾 □否	□ 110,000 円
	5. ランチョンセミナー: □諾 □否	□ 550,000 円
その他 希望事項など		

